

6 計画の推進に向けて

今後、県、沿線市町及び沿線経済団体が役割分担に応じて積極的な取組みを展開することとし、「交通改善プログラム」を目標に相模線を中心とした交通改善方策の取組みを推進していきます。このうち、「相模線本体の輸送サービス改善方策」については、鉄道事業者に対して、こうした取組みを提示し、理解と協力を求めるとともに、県や沿線市町、沿線経済団体においても、さらなる調査の深度化を図り、整備構想の具体化に向けた取組みを積極的に進めていきます。

なお、これらの取組みを進めるに当たっては、次のことに留意します。

(1) 計画の進捗管理

「相模線本体の輸送サービス改善方策」は、その他2つの視点の改善方策と連携し、相模線利用者数の底上げを図りつつ実施環境を整え、段階的整備により、その効果を確認しながら進めていくものです。よって、時間軸に沿って成果を着実に重ねていくために、方策毎の役割分担に基づき、タイムスケジュール上の進捗管理を行いながら、計画を進めていきます。

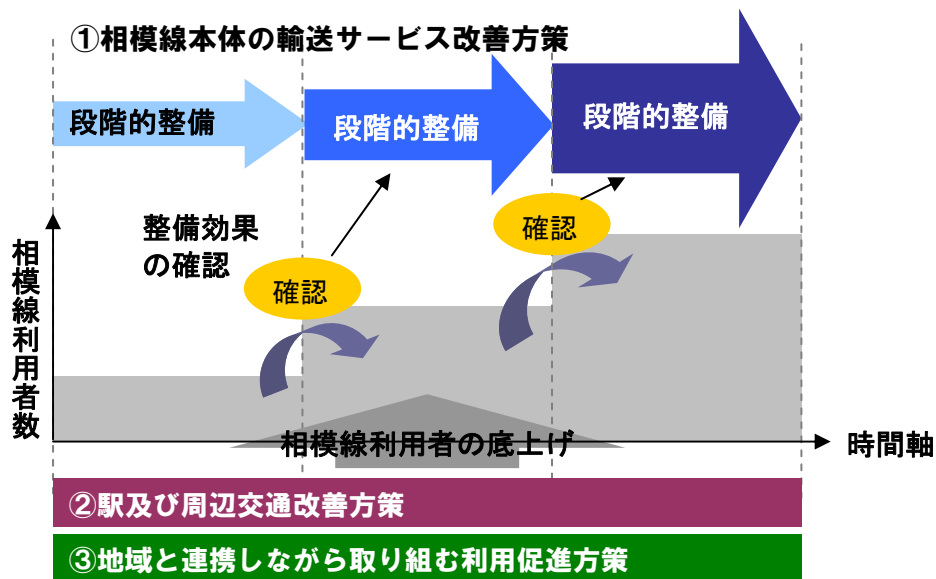


図 輸送サービス改善方策の段階的整備のイメージ

(2) 整備スキームの検討

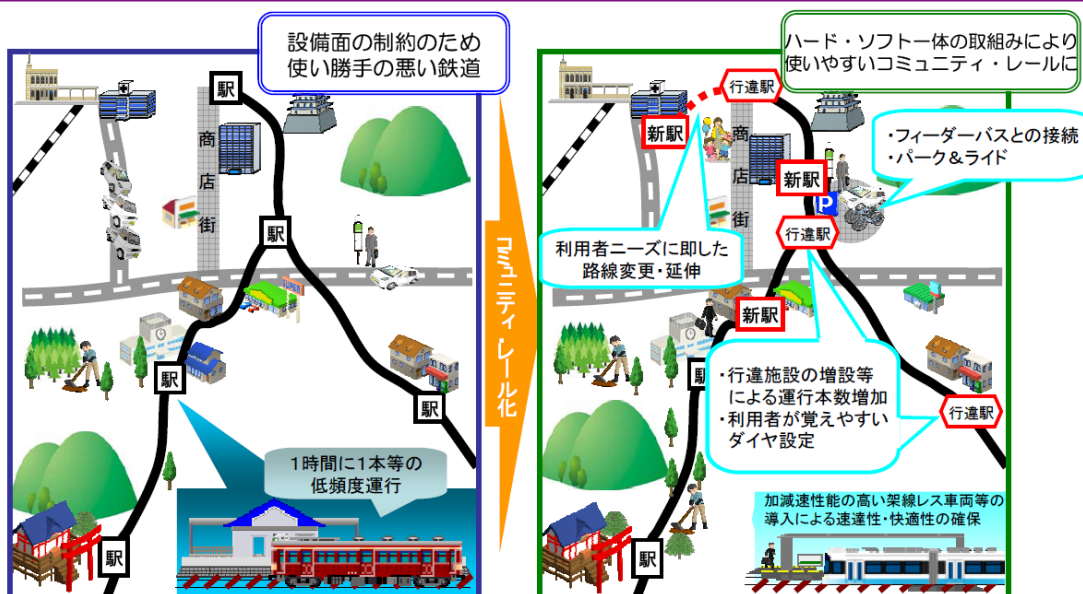
交通改善方策や鉄道整備の事業は、相当規模の事業費が想定されるものの、現在の地方自治体や鉄道事業者を取り巻く投資環境は厳しい状況にあります。そのため、自治体や鉄道事業者の財務状況を悪化させないように、効率的、効果的な事業展開を図るとともに、整備方法、財源方策について検討していきます。

表 鉄道施設に対する国庫補助制度

整備手法	事業主体	概要
幹線鉄道等活性化事業費補助 (総合連携計画事業<コミュニティレール化>)	第三セクター (駅の改良整備・保有を業務とする) 又は、法定協議会(規約等により取得財産を適切に管理) <法定協議会> 事務局：市町村 協議会メンバー：鉄道事業者等	総合連携計画に基づく鉄軌道利用者の利便性向上を図るための施設の整備を支援することにより、地域が行うサービスの向上や利用の活性化の取組を推進する。 <対象例> 輸送ニーズに対応した駅・路線の再配置、ダイヤ改正・増便等に必要な施設の整備 国・地方の支援：〔国〕1/3の補助 〔地方〕国と同額
鉄道駅総合改善費補助	第三セクター	鉄道利用者の安全性や利便性の向上を図るために、市街地再開発事業、土地区画整理事業、自由通路の整備等都市側の事業と一体的に鉄道駅のホームやコンコースの拡幅等を行い、駅機能を総合的に改善する。 国・地方の支援：〔国〕2/10の補助 〔地方〕国と同等以上
連携計画事業	法定協議会	人にやさしく活力ある都市の実現をめざし、既存の鉄道駅の改良と一体となって、地域のニーズにあった保育施設等の生活支援機能を有する鉄道駅空間の高度化 国・地方の支援：〔国〕1/3の補助 〔地方〕国と同等以上

コミュニティ・レール化の推進

[コミュニティ・レール化とは]
潜在的な鉄道利用ニーズが大きい地方都市やその近郊の路線等について、総合連携計画に基づきハード・ソフト一体で大幅な利便性向上等を図る
[取組例]
・運行本数を増発し、「毎時何分と何分に発車」といった便利で覚えやすいダイヤとする
・駅の新設や再配置により、沿線利用者が徒歩でアクセスしやすい駅を増やす 等



資料：国土交通省ホームページ

(3) 鉄道事業者との協働・連携した取組み

本計画の中で示している「相模線本体の輸送サービス改善方策」を推進するためには、鉄道事業者の理解と協力が不可欠です。

また、本計画の交通改善方策に位置づけた駅前広場の整備や駅舎の改良は、相模線の整備と密接な関連を有しており、事業相互の整合性を保つ必要があります。

本計画の推進にあたっては、適切な役割分担の下、関係自治体と鉄道事業者とが協働・連携しながら取り組めるよう努めます。

参考：法定協議会を設置し、鉄道事業者、行政、住民が一体となって鉄道活性化事業に取り組んでいる事例 <JR城端線・氷見線(JR西日本)>

- ・平成 26 年度の北陸新幹線開業に伴い、城端線に隣接した位置に新高岡駅が設置されるため、通勤・通学の足としての役割だけでなく、新幹線の二次交通としての役割が期待された。
- ・高岡市、氷見市、砺波市及び南砺市は、これまで以上の城端・氷見線の活性化を図ることを目的として、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」（平成 19 年 10 月施行）に基づき「城端・氷見線活性化推進協議会」を法定協議会に位置付け、平成 24 年 3 月に「城端・氷見線地域公共交通総合連携計画」を策定した。
- ・法定協議会の構成員である交通事業者、沿線自治体、住民等は、本計画に定める平成 24～28 年度の 5 年間にわたり、活性化事業に取り組んでいる。

●城端線新駅の設置 [H24 年 12 月 3 日調印] [H24 年 12 月 26 日設置認可]

- ・新幹線新高岡駅(仮称)の整備に伴う城端線新駅の設置について、1 面 1 線地平駅で暫定的に整備することで、JR 西日本と合意。
- ・平成 26 年度末までの新幹線開業に向け開業する予定。



●新型ラッピング車両の導入 [高岡車両：H24 年 10 月 14 日～]

- ・城端・氷見線の活性化に向け忍者ハットリくん列車(3 両)に続き、平成 24 年度に新たに沿線 4 市のキャラクターと観光地・イベント等をデザインした 4 両のラッピング車両を導入。



資料：高岡市ホームページ

(4) 沿線住民の理解と協力

本計画の事業は、沿線地域に密着し、地域住民の生活に影響する事業も多いことから、事業の実施にあたっては、地域の特性やニーズを十分に把握し、住民の理解と協力をいただきながら進めていきます。

参考：沿線住民が支援組織(サポーターズクラブ)を結成し、様々な取組を通じて、鉄道の利用促進と地域の活性化を図っている事例<津軽鉄道>

- ▶ 津軽鉄道サポーターズクラブは、「おらどの鉄道」(津軽弁で「私たちの鉄道」の意味)として親しまれてきた津軽鉄道の存続・発展を様々な形で応援する活動を通じて、地域全体を活性化し、地域を元気にしていくことを目的としている。
- ▶ 平成18年1月に設立、現在の会員数は約400名。
- ▶ 活動内容は、津軽鉄道への市民レベルでの支援のほか、津軽鉄道を軸とした地域観光資源の発掘、あるいは地域住民による、セミナーやワークショップの開催、各種イベント事業の実施など多方面にわたっている。



会員手作りによる「津軽沿線散策マップ」



若者の視点で鉄道や沿線地域の活性化を考える「放課後まちづくりクラブ in 津軽鉄道」

資料：総務省ホームページ

(5) 民間事業者の協力

本計画には、関係自治体はもとより、民間事業者が主体的に取り組む事業も含まれていますので、関係のバス事業者や沿線の企業の方々などにも理解と協力を求めています。

相模線を中心とした交通改善方策と整備構想、
利用促進方策
— 新たな相模線交通改善プログラム —

平成 26 年 3 月

相模線複線化等促進期成同盟会
